Pandanaceae ニ對スル科名トシテ最初ニ採用サレタノハ明治十二年五月文部省印行ノ植物綱目（長谷川泰氏原譯）ニ於テデアル。

○晒木綿ヲ使ハズニ海藻ノ標品ヲ作ル方法　(前川文夫)

晒木綿ヲ使フ事ハ海藻標品作製上ハ常識デアリ不可缺ト思ハレテ居ル。(モツトモ上海版ノ周玉田、動植物採集及標本製作法（民國 25 年）：170 ニハ須置大玻璃缸中、內置淸水使之漂散於白色硬紙上、然後取出平鋪於採集紙中、置於標本夾中緊壓、使其乾燥トアツテ布ヲ使用シナイ者モアル樣デアルガコレハ普通デハナイ)。最近ノ木綿、純綿ハ勿論スフデサヘモ入手難ノ折柄海藻學ノ實習等ニ木綿ノ無イノヲ克服シヤウト次ノ方法ヲ試ミタ。

1) 海藻ヲ淡水中ニ入レテ形ヲ整ヘ、厚紙上ニ展開サセテ靜カニ水カラ上ゲルコト型ノ如クニスル。

2) 新聞紙全紙 8 頁分ヲ重ネテ二ツ折ニシタモノヲ上記標品ノ前後ニ當テガフ。コノ際ニ顯花植物ノ場合ノ如クニ新聞紙 1 頁大ノ二ツ折ノ間ニ挿入スルコトハシナイ。

3) コレヲ重ネテ壓ス。

第 1 日ニハ半日位デコノ新聞紙ヲ取換ヘル。ソレニハ先ヅ上ノ濕ツタ新聞紙ヲ取除キソノ跡ヘ乾イタモノヲ置キ、次ノ濕ツタ新聞紙ト共ニ標品ヲ挿ンダ儘デ上下ヲ裏返シテカラ濕ツタ新聞紙ヲ去リ、更ニ厚紙ヲモ注意シテ取去ル。ソノ跡ヘ乾イタ新聞紙ヲ當テル。コレヲ各標品ニツイテ繰返ス。新聞紙ハ何度モ使用シテ日ニ燒ケテ黃色クナツタモノノ方ガケバ立タナクテヨロシイ。吸取紙ハ纖維ガ體ノ表面上ニ着イテヨゴレルノデ直接ニ當テルコトハ絕對ニイケナイ。第 2 日以下ハ每日 1 回ヅヽ上記ノ方法デ、紙ノ取更ヘヲ實行スル。コノコトハ海藻體ノ脫水乾燥ト新聞紙ヘノ粘着防止トノ二ツノ目的ノタメデアル。上下飜轉ニハ一寸注意ガ要ル。ソレハ乾キカヽルト海藻ガ紙ノ間カラ拔ケテ落チル心配ガアルコトデアル。5-7 日位デ大抵ノモノハ先ヅ乾イテ來ル。後ハ臺紙ヘ添付スルナリ新聞紙ノ間ニ挿ンダ儘デナリ整理保存スル。カウスレバ臺紙付ノモノト同樣ニ或ハ夫レ以上ニ原形ヲ存シ且ツ美シク出來ルシ、標品ノ表裏、厚サ、柔軟サ等ヲ容易ニ見ルコトモ出來ルシ、厚紙ヲ展開用ニ何度モ使用シテ紙ノ節約モ出來ル利點ガアル。三崎デノ採品ヲ用ヒテノ結果デハまめだわらヤがらがらノ如キ紙ニ附キ難クイモノハ勿論申分ナイガ、しきんのり、すぎのり、ふさのり、てんぐさ、とさかのり、たんばのり等ノ紙ニ密ニ粘着スル種類デモ上記ノ方法ニヨレバ充分ニ良イ標品トナル。いぎすノ如キ特ニ纖細ナモノハ從來ノ方法デナイト壞レル心配ガアルガ、先ヅ大抵ノ種類ニハ適用出來ルト思ハレタノデコヽニ述ベテ御參考ニ供スル。